

# あきらめなければ負けはない!!



女性部会のようす

島根県代協  
セミナーを開催

## 将来見越し自己研鑽 女性初の代表取締役

講師を務めた山陰合同銀行代表取締役専務執行役員、吉岡和子氏は、

島根県代協(谷口正人会長)女性部会は、2月20日15時から、出雲市のニューウェルシティ出雲で女性部会セミナーを開催し、12代理店、21名(うち島根県代協から4代理店、4名)が参加した。参加者は、講師を務めた山陰合同銀行代表取締役専務執行役員、吉岡和子氏から、「充実した社会生活とキャリアを築くための心構え」など多くを学んだ。



吉岡氏

講演では、まず山陰地方が抱える労働力不足と企業のDX化といった課題に触れた後、自身のキャリアを紹介。商品開発部署在籍時には、当初希望していた宣伝広告とは異なる業務に従事していたが、「あきらめなければ負けはない」と信じ、希望し続けた結果、念願だった宣伝広告担当の任命を得た。支店長代理への昇進を打診された際には不安も感じたが、上司からの励ましもあり挑戦を

決意。女性のキャリアに社会生活とキャリアに対する銀行の考え方の変化を感じ、自発的に外部のセミナーや研修に参加し自己研鑽を重ねるなど、将来を見越し準備を怠らなかつたが、支店長就任当初は、訪問先で「事務員さん」と紹介された。支店長が女性であることに不安を感じられるお客さまもいた。

①では、サラリーマンの最大の敵は「マンネリ化」であると指摘。他人と比較せず、自身のキャリアや知恵を活かすことが重要で、「できません」という前にまずやってみることを、管理職の打診なども断らずに受ける姿勢が大切だと強調し、一度断ると次のチャンスは来ないと述べた。そして、自分で自分を褒めることができるよう、ルーティンワークに小さな工夫を加え、仕事を楽しむことが自己肯定感につながる

②では、AI化が進んでも仲間との協調は不可欠で、共に泣き笑いできる仲間がいるから働き続けることができる。話し、たとえ挨拶を返してくれない相手でもこちらから積極的に関わることから人間関係は変わる、決して人間関係を諦めないことだと述べた。そして、職場では誰に対しても公平に接することを心がけることが大切であり、とくに女性がつくりやすい「仲良しクラブ」には注意を呼びかけた。

また、③では、必ず退職の日が来ることを意識すれば、残された時間で同僚やお客さま、地域のために何が出来るかを深く考えるようになり、すべての関わりが愛おしくなる。個人的には先輩から受け継いだ山陰への想いというDNAを若い世代につなぐことが今の自分の役割であると述べた。

そして、最後の④については、女性が生き生きと働く姿を見せることが、次の世代に山陰で働きたいと思ってもらえるきっかけになると述べ、参加者とともに、30年後、100年後を見据えて面白い山陰をプロデュースしていこうと呼びかけた。

講演終了後、参加者によるグループディスカッション、懇親会が行われ、充実したセミナーとなった。

## 山陰合同銀行の吉岡専務を講師に招き

講演では、まず山陰地方が抱える労働力不足と企業のDX化といった課題に触れた後、自身のキャリアを紹介。商品開発部署在籍時には、当初希望していた宣伝広告とは異なる業務に従事していたが、「あきらめなければ負けはない」と信じ、希望し続けた結果、念願だった宣伝広告担当の任命を得た。支店長代理への昇進を打診された際には不安も感じたが、上司からの励ましもあり挑戦を

決意。女性のキャリアに社会生活とキャリアに対する銀行の考え方の変化を感じ、自発的に外部のセミナーや研修に参加し自己研鑽を重ねるなど、将来を見越し準備を怠らなかつたが、支店長就任当初は、訪問先で「事務員さん」と紹介された。支店長が女性であることに不安を感じられるお客さまもいた。

①では、サラリーマンの最大の敵は「マンネリ化」であると指摘。他人と比較せず、自身のキャリアや知恵を活かすことが重要で、「できません」という前にまずやってみることを、管理職の打診なども断らずに受ける姿勢が大切だと強調し、一度断ると次のチャンスは来ないと述べた。そして、自分で自分を褒めることができるよう、ルーティンワークに小さな工夫を加え、仕事を楽しむことが自己肯定感につながる

②では、AI化が進んでも仲間との協調は不可欠で、共に泣き笑いできる仲間がいるから働き続けることができる。話し、たとえ挨拶を返してくれない相手でもこちらから積極的に関わることから人間関係は変わる、決して人間関係を諦めないことだと述べた。そして、職場では誰に対しても公平に接することを心がけることが大切であり、とくに女性がつくりやすい「仲良しクラブ」には注意を呼びかけた。

また、③では、必ず退職の日が来ることを意識すれば、残された時間で同僚やお客さま、地域のために何が出来るかを深く考えるようになり、すべての関わりが愛おしくなる。個人的には先輩から受け継いだ山陰への想いというDNAを若い世代につなぐことが今の自分の役割であると述べた。

そして、最後の④については、女性が生き生きと働く姿を見せることが、次の世代に山陰で働きたいと思ってもらえるきっかけになると述べ、参加者とともに、30年後、100年後を見据えて面白い山陰をプロデュースしていこうと呼びかけた。

講演終了後、参加者によるグループディスカッション、懇親会が行われ、充実したセミナーとなった。